

研究報告 3

英語を通して自分の考えを伝え合うことができる生徒の育成  
－ 「書くこと」と「話すこと」を関連付けた言語活動の工夫－

愛知県立昭和高等学校 教諭 名和 孝

1 はじめに

平成 20 年に本校に赴任したことを機に、英語 I・II やリーディングの授業で教科書本文を全て日本語に訳させる従来の指導を改めて、英問英答や True or False による内容把握を中心に据えた授業展開を試みてきた。さらに、口頭での追加・補足的な英問英答についても工夫してきた。これは、教員との英語でのやり取りを通して、生徒のコミュニケーション能力を向上させたいと考えたからである。

しかし、教員と生徒の間のやり取りだけでは英語を使う生徒の数は限られ、話す時間も短い。生徒のコミュニケーション能力を伸ばすためには新たな手だてが必要であると感じるようになった。そこで、本研究では、単元構想を工夫することによって生徒が英語を使う時間を確保し、読んだ英文の内容について自分の考えや意見をもたせ、それを英語で伝え合う活動を充実させれば、生徒の英語による表現の能力を育成できると考え、具体的な指導の在り方を探ることとした。

2 生徒の実態

本校第 2 学年生徒 117 名に対し、英語の授業への希望や言語活動に対する意識について調査した(平成 24 年 7 月実施)。

①英語の授業で重点を置いてほしいこと。							
聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	4技能をバランスよく			
6.3%	<b>21.6%</b>	16.2%	11.7%	<b>44.1%</b>			
②英語でのコミュニケーション能力を身に付けたいですか。 ③生徒同士のペア・ワークをしたいですか。							
そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
<b>44.1%</b>	<b>48.6%</b>	6.3%	0.9%	16.2%	30.6%	<b>43.2%</b>	<b>9.9%</b>
④生徒同士のグループ・ワークをしたいですか。				⑤スピーチをしたいですか。			
そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
<b>24.3%</b>	<b>34.2%</b>	28.8%	12.6%	2.7%	21.6%	<b>49.5%</b>	<b>26.1%</b>

①の結果から、英語の授業において4技能をバランスよく身に付けたいと考える生徒が4割を超え、最も多いことが分かる。次いで「話すこと」に重点を置いてほしいと考える生徒が約2割となっている。また、②の「コミュニケーション能力を身に付けたいか」という質問に対しては、「そう思う」「ややそう思う」という肯定的な回答をした生徒が9割を超えている。4技能をバランスよく身に付け、コミュニケーション能力を向上させたいという生徒の希望が読み取れる。

③、④、⑤の結果からは、言語活動の内、ペア・ワークとスピーチに対しては抵抗感をもっている

生徒が多く、グループ・ワークにはやや意欲的であることが分かる。また、4技能のそれぞれについての意識を尋ねたところ、「得意である」と回答した生徒の割合は、「読むこと」(45.0%)、「聞くこと」(37.8%)、「書くこと」(31.5%)、「話すこと」(19.8%)の順であった。生徒は英語を理解することによって英語で表現することには自信がもてないようである。よって、コミュニケーション能力を身に付けたいという生徒の希望をかなえるためには、4技能のバランスを考慮して言語活動に意欲的に取り組ませる工夫が必要である。

### 3 研究の目的

「読むこと」が中心であった英語Ⅱの授業において、生徒が自信をもてていない「書くこと」と「話すこと」の活動もバランスよく行うことによって、生徒が抵抗感をもつことなく、相手に分かりやすい英文で自分の考えや意見を伝え合うことができるようにしたい。

#### 【目指す生徒像】

自分の考えや意見を、相手に分かりやすい英語で伝え合うことができる生徒

### 4 研究の仮説

研究の目的を達成するために、次のような仮説を立て検証することにした。

仮説1：フローチャートと関連付けた英問英答を中心とする授業展開を工夫すれば、生徒は日本語訳に頼らずに本文の概要を把握することができるだろう。

仮説2：英文についての自分の考えを伝え合う言語活動を工夫して単元構想に組み込めば、相手に分かりやすい英文を書いて伝え合うことができるだろう。

### 5 研究の方法

研究の仮説を検証するために、第2学年英語Ⅱの授業において、以下の方法で実践を行うことにした。

#### (1) 英問英答を中心とした授業展開に関する工夫の手だて

ア 補充プリントや授業プリントを用いた本文を読み切るための支援…**手だてA**

(ア) 文法事項は例文を用いて使用場面を示し、英文を書くことにより定着を図る。

(イ) 単語や熟語については、内容理解のためにあらかじめ知っておくことが必要なものを示す。

イ 教員－生徒間の英問英答…**手だてB**

(ア) 本文理解のための英問に答えさせる。

(イ) 内容整理のためのフローチャートを完成させる。

(ウ) 生徒の考えを引き出す英問に答えさせる。

ウ パートごとの要約文の記述・・・**手だてC**

#### (2) 自分の考えを伝え合う言語活動の工夫の手だて

ア 単元全体について自分の考えの記述・・・**手だてD**

イ グループ・ワークでの自分の意見の発表・・・**手だてE**

(ア) グループ・ワークを進める英語表現を示す。

(イ) 評価のポイントを示した上で、評価シートを用いて相互評価させる。

#### (3) 検証方法

ア アンケートによる生徒の意識の変化の把握

イ 生徒の様子や反応、書いた英文や発表の内容の分析

#### (4) 単元構想

1 単元名 Lesson 6 A Man Who Saved the World			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループで自分の考えを伝え合う活動に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・読んだ内容について、自分の意見を書いてまとめ、聞き手に分かりやすく伝えることができる。</li> <li>・本文についてのフローチャートを作成して概要を把握することができる。</li> <li>・仮定法の用法や理由を表す表現について理解している。</li> </ul>			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ペアやグループで自分の考えを伝え合う活動に積極的に取り組んでいる。	読んだ内容について、自分の意見を書いてまとめ、聞き手に分かりやすく伝えることができる。	本文についてのフローチャートを作成して概要を把握することができる。	仮定法の用法や理由を表す表現について理解している。
4 単元の概要と言語活動			
ベトナム・ハノイで発見された謎の新種ウィルス（SARS）に対し、自らの命を賭けて闘ったイタリア人医師カルロ・ウルバニ氏についての文章である。ウルバニ氏の行動や医者としての信念を読み取り、彼の立場ならばどうするか自分の考えを書いて伝え合う活動を行い、英語で相手に分かりやすく伝える力を養う。			
5 単元の指導計画（全6時間） ※1時間：65分			
	学 習 活 動（生徒）	言語活動に関する指導上の留意点（教師）	
第1次 (1)	<b>【イントロダクション】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のオーラル・イントロダクションを聞いて、SARSについての知識を得る。</li> <li>・本文で扱われる文法事項を用いた英文を書くことで、文の構造と意味を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元に興味をもたせるようなオーラル・イントロダクションを行う。</li> <li>・文法事項などは例文を示し、使用場面を意識させる（資料8 補充プリント）。</li> </ul>	
第2次 (4)	<b>【内容理解：パートごとに学習する】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員から発問される段落ごとの質問に答え、フローチャートを完成させることにより、本文の概要を把握する。</li> <li>・各パートの要約を3文程度の英語で書く。</li> <li>・各パートの新出表現などを含む英文についての説明を聞いて理解する。</li> </ul>	<b>手だてA</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落ごとに順に口頭での発問を行い、生徒の答えを引き出しながら、本文の概要を把握させる（資料9 授業プリント）。</li> </ul>	
第3次 (1)	<b>【自分の考えの発表】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らを主人公と仮定し自分ならどうするか、その理由も含め、書いてまとめる。</li> <li>・書いたものをペアで発表練習し、次に、グループ内で発表し、お互いを評価し合う。最後に代表者が全体の前で発表する。</li> </ul>	<b>手だてB</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各段落のトピック・センテンスを選んで要約をまとめさせる。<b>手だてC</b></li> <li>・新出表現や文構造などを簡潔に解説する。</li> <li>・仮定法や、理由を述べる表現を活用するよう指導する（資料10 “Write your idea!” プリント）。<b>手だてD</b></li> <li>・評価のポイントを事前に説明し、発表の際に意識させる（評価シート）。<b>手だてE</b></li> </ul>	

## 6 学習活動と新学習指導要領との関連

- まとまった量の説明文を聞いたり読んだりして、概要や要点を的確に理解することができる。

イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。  
また、聞き手に伝わるように音読する。 (コミュニケーション英語 I 2 (1))

- 聞いたり読んだりした内容について、自分の意見とその理由を聞き手に伝えることができる。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (コミュニケーション英語 I 2 (1))

## 7 言語活動の充実の工夫

4技能のバランスを考慮した指導手順の詳細は以下のとおりである。

### 【内容理解】

#### <予習>



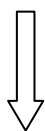
- ・本文をノートに写し、授業の前に読んでおく。意味の分からない単語は辞書で調べて書く。

#### <Pre-Reading>



- ・前時に生徒が作成した要約を2～3例読みあげて、前時の内容を思い出させる。
- ・新出単語・熟語の発音やアクセントを確認する。

#### <While-Reading>



- ・本文をCDで聞き、教科書を目で追いながら、声に出さずに読む。
- ・段落ごとに教員の英問に答えながらフローチャートを完成させて概要を把握する。また、生徒の考えを引き出す英問に答えることでより深く内容を理解する。

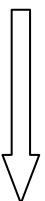
#### <Post-Reading>



- ・パートの要約を3文程度でまとめ、その後教員のまとめた要約を聞く。
- ・本文の音読（センス・グループごとにCDの後に続いての音読、それ以外にバズ・リーディング、ペア・リーディング、オーバーラッピングなどから選んで行う）。

### 【自分の考えの発表】

#### <Write your idea!>



- ・「ウルバニ医師は危険を冒して患者のもとへ通い続けました。あなたが彼の立場ならどうすると思いますか」という問いに対する自分の考えを5～6文の英語で書く。
- ・書き出しは、If I were in Dr. Urbani's place, ～ とするよう指示をする。
- ・教員が作成した例文を紹介し、作成の際のポイントを伝える。

#### <Presentation>

- ・教員がクラス全体の前で例文を発表した後、発表（評価）の3つのポイントを次のように伝える。  
「声の大きさ・話し方」「話の内容が理解できる」「アイコンタクト・熱意」
- ・作成した英文をペアで読み合い、修正を加えて、発表の練習をする。
- ・グループ内発表（5～6名）の手順を説明した後、司会の合図で発表を行い、相互評価する。
- ・各グループの代表者1人が全体の前で発表する。

## 6 研究の実際と考察

### (1) 英問英答を中心とした授業展開

#### ア 補充プリントや授業プリントの活用 **手だてA**

補充プリントは単元全体の文法事項やイディオムをまとめたもので、単元の最初の授業で配付した。その中の三つの文法事項は既に既習のものであり、復習として簡単な説明を加え、この文法事項を使った英作文を行うことにより定着を図った。生徒は授業に入る前に予習として本文を読んでおくことになっており、その際に、補充プリントを活用して独力で読み切ることを狙っている。

授業プリント（資料1）はパートごとに作成したもので、新しいパートに入る時点で配付した。その中の【Words & Phrases】では、生徒が意味を取りにくい、あるいは意味を取り違えそうな単語や語句を取り上げ説明してある。予習として読んだ内容を確認するためのものと位置付けている。

これらのプリントを作成したのには、授業中に文法事項やイディオム、単語を細かく説明する時間を省き、内容理解や言語活動の時間を確保する目的もある。

#### イ 教員と生徒間の英問英答 **手だてB**

この英問英答には1パートにつき10問前後の質問を用意した。一つのパートを最初から最後まで通してやるのではなく、段落ごとにCDで本文を聞いた後、クラス全体に対して口頭で質問を行い、生徒を指名して答えさせた。その質問の答えが授業プリントの【Chart】の空欄に当たる部分は板書したり、事前に紙に書いたものを貼ったりした。それ以外にも内容把握を促すような質問の答えは【Chart】に追加する事項として板書した。

段落ごとに、しかも文の順に質問を重ねていくため、生徒はしっかり聞いていれば答えられないということはあまりなかったが、質問の意味が分からなくて答えられない生徒がいる場合は、質問の仕方を変えたり、ヒントを与えたりして答えられるようにした（資料2）。

こうした本文の事実確認の英問英答に加え、生徒自身の考えや意見を問うような英問を授業

### 【資料1 授業プリント (Part 2)】

Lesson 6 A Man Who Saved the World (Part2)

**【Words & Phrases】**  
 struggle n 闘い  
 examination n ①試験 ②調査  
 flu n = influenza

Guangdong 広東省 (中国)  
 if conj ①もし~なら ②~かどうか  
 spread n ①広がり、幅 ②広まり

**【Chart】**

March 3  
 Dr. Urbani received a call from the Hanoi French Hospital. He asked for Urbani's help.

3 symptoms  
 - running a high fever  
 - his face, arms and legs are purple  
 - kept coughing in pain

He saw that the patient was having difficulty breathing.

He could not discover the cause of the disease.

Only  
 He watched the spread of the disease.  
 He reported it by e-mail to WHO.

**【Question】** Answer the question in English!  
 Why did Urbani wonder if the patient had met with people from Guangdong, China?  
 Because he had heard that people there were in a panic because of the outbreak of a mysterious pneumonia.

**【Points】** Try to catch the meaning!  
 P79L14 This is not what we know as a flu.  
 P79L20 But nobody was sure if the patient had been close to any infected people.  
 P79L21 All Urbani and his colleagues could do was to watch the spread of disease and report it by e-mail to WHO.

**【Summary】**  
 March 3, 2003, Urbani received a call from the Hanoi French Hospital. He saw that the patient was having difficulty breathing but could not discover the cause of the disease. He and his colleagues could only watch the spread of the disease and reported it by e-mail to WHO.

### 【資料2 英問英答での実際のやりとり】

T: What did he see at the hospital?  
 S1: He saw that the patient was having difficulty breathing.  
 T: Good! Next question. What are three symptoms, S2?  
 S2: ...  
 T: OK. Tell me more information about the patient.  
 S2: The man was running a high fever, close to 40 degrees.  
 T: Great!

### 【資料3 生徒の考えを問う英問に対する英答例】

**【Question】** Answer the question in English!  
 How do you think the patients felt in an isolation ward?  
 I think they felt very lonely.  
 Why do you think Urbani decided to leave Hanoi for Bangkok?  
 Because he thinks his family's precious existence.

プリントに記載した。例えば Why do you think ~? から始まるような質問で、本文から答えを探すのではなく、本文の内容をヒントにして自分の考えを書く必要があり、より深く本文を読むことになる(資料3)。

ウ パートごとの要約文の記述 **手だてC**

英問英答により本文の概要を把握することができると考えられるが、それぞれのパートの要点を捉えることができているか確認する必要がある。そこで、5分間の制限時間内に3文程度の英語でパートの要約文を書かせることとした。生徒はフローチャートを参考にしながらもう一度パートの本文を読み、その上で要点をまとめた(資料4)。制限時間になった時点で教員の書いた要約例を読み上げ、生徒には自分の要約と比べさせた。教員の要約はあくまでも参考であり、別の表現でも要点を捉えていけばよいということを説明した。

**【資料4 要約文の例 (Part 2)】**

**【Summary】**  
Dr. Urbani saw that the patient had difficulty breathing in the Hanoi French Hospital.  
He could not discover the cause of the disease.  
He only watched the spread of the disease and reported it by e-mail to WHO.

(2) 自分の考えを伝え合う言語活動

ア 単元全体について自分の考えの記述 **手だてD**

本文で扱われたウルバニ医師の立場に自分を置き、自分のとる行動を考えさせ、5~6文の英語で考えを書くように指示をした。まず教員が考えた例文を紹介し、分かりやすい英語を用いて相手に自分の考えを伝えられるように書くことが大切であることを伝えて、プレゼンテーションができるように準備させた。

今回は前単元に続いて2回目の英作文となったため、大半の生徒は15分前後で書き終えていた。後で回収して内容を点検すると、本文から表現を抜き出してまとめたものが多い中、独自の考えを表現したり、正直な感情を書き出したりした作文もあり、内容的に読みごたえがあった(資料5)。

**【資料5 英作文の例】**

●Urbani 医師は感染の危険を冒して患者のもとへ通い続けました。あなたが彼の立場ならどうすると思いますか。5~6文の英文で書いてみよう。

If I were in Dr. Urbani's place, I would do the same as he did. I think I should try to do my best because I am a doctor. But SARS is very dangerous. So I must wear protective gear. Patients is very fear<sup>ful</sup>. So I think it was happy for them that he stayed by them. And I want to be like him for them.  
I struggle with the disease!



イ グループ・ワークでの自分の考えの発表 **手だてE**

まず、教員が例として生徒の前で発表した。その後、評価の三つのポイントを示してプレゼンテーションをする際に注意すべき点を説明した。1グループは5～6人とし、進め方の手順をプリントに示し（資料 11）、進行のための定型表現を参考にして、司会を中心にグループでの発表を行った（資料 6）。

積極的に取り組むグループもあれば、淡々と進めていくグループもあり、司会によってグループの雰囲気は異なっていた。一人の発表が終わると、他のメンバーが評価シートに評価とコメントを記入した（資料 7）。評価シートはグループのメンバー全員の発表が終わった時点で本人に渡すこととした。

評価段階（A, B, C）ごとの配点に基づき、生徒は自分の合計得点を計算し、グループの中で最も得点の高かった生徒が代表者となり、全体の前で発表した。この活動も2回目のため前回よりもゆっくりはつきり話すように心がけていた生徒が多く、全体的に分かりやすかった。

【資料 6 グループ・ワークの様子】



【資料 7 評価シートの例】

**Evaluation Sheet**

To \_\_\_\_\_

1 声の大きさ・話し方  
 A    B    C

2 話の内容が理解できる  
 A    B    C

3 アイコンタクト・熱意  
 A     B    C

Comments

ほきほきしてて文が頭の中に入ってきたし。わかりやすかった。

※「よかった」だけでなく、どのようなかまで掘り下げてコメントしよう。

(3) アンケート結果

今回の研究のために都合3回のアンケートを実施した。授業実践を行う前の「実践前」、初めて英作文を書いて発表した「前単元」、新たな内容把握の実践と2回目の英作文・発表を行った「今単元」である。

ア 内容把握に関する質問

(ア) 本文の内容は理解できましたか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
今単元	<b>52.7%</b>	<b>38.2%</b>	9.1%	0.0%

(イ) 各パートの段落ごとの口頭質問に答え、チャートを完成させるやり方はよいと思いますか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
今単元	<b>56.4%</b>	<b>36.4%</b>	7.3%	0.0%

(ウ) 各パートの終了後に要約を行うことはよいと思いますか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
今単元	<b>56.9%</b>	<b>36.7%</b>	6.4%	0.0%

(ア)にあるように、本文の内容を理解できていると答えた生徒は「ややそう思う」も含め9割を超えている。大半の生徒が理解できていると考えられる。

(イ)の教員が口頭で発する英語の質問に対し英語で答えながらフローチャートを完成させていく内容把握の方法に対しても9割を超す生徒が肯定的に捉えている。「段落ごとに順を追って理解できるので分かりやすく記憶に残りやすい」や「フローチャートは視覚的に理解できてよい」などの意見があった。

(ウ)の各パートの要約についても9割以上が肯定的に捉えている。「ちょっと難しいけど内容が深く分かると思う」「本文の大事なところを何回も読める」「要約を書こうとしてどこが大切か本文から探す練習ができてよかった」「英作文の力がつく」といった意見が多かった。生徒にとって要約は頭を使う大変な活動であるが、内容理解の点でも英文を書くという点でも、目的を理解して取り組んでいるようである。

#### イ 自分の考えを伝え合う言語活動に関する質問

(ア) 英作文は思いどおりに書けましたか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
前単元	13.5%	47.7%	36.9%	1.8%
今単元	<b>23.6%</b>	<b>48.2%</b>	27.3%	0.9%

(イ) 生徒同士のペア・ワークをしたいと思いますか。(実践前)

英作文をペア・ワークで発表し合うことは、やってよかったですか。(前単元)

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
実践前	16.2%	30.6%	43.2%	9.9%
前単元	<b>43.2%</b>	<b>45.0%</b>	11.7%	0.0%
今単元	実 施 せ ず			

(ウ) 生徒同士のグループ・ワークをしたいと思いますか。(実践前)

英作文をグループ・ワークで発表し合うことは、やってよかったですか。(前単元・今単元)

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
実践前	24.3%	34.2%	28.8%	12.6%
前単元	49.5%	43.2%	6.3%	0.9%
今単元	<b>40.5%</b>	<b>40.5%</b>	16.2%	2.7%

(エ) グループ内での発表は思いどおりに話せましたか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
前単元	21.8%	61.8%	13.6%	2.7%
今単元	<b>36.1%</b>	<b>50.0%</b>	11.1%	2.8%

(オ) グループ内で他の人が話す内容は理解できましたか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
今単元	<b>13.9%</b>	<b>66.7%</b>	13.9%	5.6%

(カ) 代表者が全体の前で話す内容は理解できましたか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
今単元	<b>27.0%</b>	<b>54.1%</b>	13.5%	5.4%

(ア)から読み取れるように、英作文が思いどおりに書けた生徒は前単元の61.2%から今単元の71.8%へと約10%増えている。英作文は2回目であるため、書くことに慣れてきたことが要因と考えられる。一方「あまりそう思わない」と答えた生徒の中には「率直な感想を書こうとしすぎて簡単な



英文を書けなかった」「自分の伝えたいニュアンスに合った単語が見付けられなかった」と記述する者がおり、自分の考えを英語にすることの難しさを実感したようである。

(イ)、(ウ)の結果から、実践前にはペア・ワークやグループ・ワークで自分の考えを発表し合うことに抵抗を感じていた生徒が多かったが、実際に行ってみると「やってよかった」と思った生徒が増えている。「やっぱり恥ずかしいが楽しくてよかった」「みんなの考えを英語で聞けておもしろかった」「英語が聞き取れるとうれしかった」「生きている英語を学べた気がする」という肯定的な意見が多かった。

(エ)では、グループ発表で思いどおりに話せたかという質問に対し「ややそう思う」と答えた生徒がもっとも多く、「そう思う」も含めて思い通りに話せたと答えた生徒の割合は8割を超えていた。教員の視点ではまだまだ改善すべき点が多いと感じたが、生徒の満足度は高い。発表する前の心配が大きかった分、やってみたら意外とできたという感覚であろう。それでも「みんなにちゃんと全文伝えたかった」「相手に自分の気持ちを伝えるのは難しいと思った」「もっとアイコンタクトをとれるようにしたい」など反省点を述べ、向上心を見せる生徒もいた。

(オ)、(カ)では相手が話す内容を理解できたかどうかについて尋ねたところ、「そう思う」または「ややそう思う」と答えた生徒はいずれも8割を超えている。発表内容はある程度理解はできていると考えられるが、「書くことも難しかったが聞くことのほうが数倍難しかった」「リスニングが苦手だからみんながしゃべっていることが全然分からない」と述べ、聞き取ることの難しさを感じた生徒もいた。

## 7 成果と課題

### (1) 仮説1の検証

本文の内容理解について、今回は1パートを段落ごとに区切り、しかもその段落の中で文の順に口頭質問を投げかけ、ランダムに生徒を指名して答えさせた。さらにフローチャートを用いて内容を整理し、各パートを英語で要約させた。

結果としては、アンケート結果ア(ア)にあるように本文の内容を理解できていると肯定的な回答をした生徒が9割を超えた。ほとんどの生徒が日本語訳に頼らず英問英答により内容理解ができることが示され、仮説1は支持されたと言える。さらに、アンケート結果ア(イ)と(ウ)にあるように今単元の授業展開について肯定的な回答をした生徒も9割を超え、生徒の授業参加への意欲も高めたと言える。

### (2) 仮説2の検証

自分の考えを書いてそれを伝え合う言語活動は2単元にわたりそれぞれ1回ずつ計2回行った。結果としては、自分の考えを書くことについては、アンケート結果イ(ア)にあるように、自分の思いどおりに書けたと思う生徒は「ややそう思う」も含めると7割を超え、前回と比べても1割増えていた。

また、伝え合う活動については、アンケート結果イ(エ)にあるように、思いどおりに話せたと思う生徒は「ややそう思う」も含め86%で、前回と比べて若干増加していた。一方、アンケート結果イ(オ)と(カ)では、聞く側として話す内容が理解できたと思う生徒は「ややそう思う」も含め8割を超えていた。これらのアンケート結果から、仮説2は支持されたと言える。

### (3) 今後の課題

内容把握については、扱う教材が変われば内容把握の方法も変わってくる。今回の単元はさほど難解ではない説明文であり時系列に話が進んでいくため、文章の順に口頭で次々と質問を投げかけ答えさせる方法が可能であった。しかし、難解な論説文などにおいても同じ方法が可能かどうかは検討しなければならない。

また、今回、フローチャートは教員がその枠組みを作り、それを生徒が埋めて完成するという方法をとった。フローチャートを作成することはいわば大切な箇所を抜き出す一種の要約であり、これを教員ではなく生徒が自らの力で作り上げることが理想である。今後の検討課題としたい。

一方、自分の考えの発表については、今回は内容が伝わるかどうか重点を置いた。その結果、人が話す内容を理解できたと思う生徒の割合は「ややそう思う」も含め8割を超え、その意味では目標を達成できた。

しかし実際には、声が小さくなったり、早口になったり、原稿ばかり見ていたりする生徒が目についた。これは単に恥ずかしいだけではなく、生徒が自由に書いたものを事前に添削せずそのまま発表させたために自分の話す内容に自信がもてていないことや、十分に話す練習ができていないことが影響しているように思われる。自信のもてない英作文に対して読む練習をする気持ちになれないのかもしれない。今後は、英作文を書き終えた時点で教員が添削した後に、話す練習をしっかりとした上で発表へとつなげていけば、正しい表現の文章を自信をもって発表できると考える。

今回は、発表まで終わった時点で英作文の原稿を集めて添削をした。伝えたい内容が読み取れるものであれば間違った表現を添削したが、時には全く内容が読み取れない文があり、添削することができなかった。それでも何かを伝えたいと思って書いている英作文を大切に扱い、該当の生徒に作文の意図を確認し、その表現方法をアドバイスしていくことで、生徒の自己表現の能力と意欲を高めていきたい。

今回の実践では、生徒は書く力・話す力を少し身に付けて、ようやく英語での言語活動に慣れてスタート地点に立ったというところであろう。「読む」活動に比べて、「書く」・「話す」活動の機会は今まで少なかったため、今後も単元構想の工夫を重ねて英作文や発表の機会を充実していきたい。

## 8 おわりに

内容理解のための口頭での英問英答の実践について、生徒のアンケートに「口頭質問に答えようとすると集中して聞けるのでよいと思う」という意見があった。このように前向きに取り組もうとしている生徒が大半を占めているが、授業中の生徒の様子を見ていると「この生徒は本当に聞いているのだろうか」と不安に思うことがある。また、英問を聞こうとしても聞き取れない生徒もいるかもしれない。

英語で授業を進めていく場合、生徒にとってハードルが高い分、生徒の取り組もうという意欲を維持させることがより必要になる。生徒自身が学習意欲をもつことはもちろん大切であるが、教員側にも生徒の意欲を持続させる仕掛け作りが求められる。今後は、生徒の理解を助けるワークシートの作成といった授業展開の工夫や、生徒の理解の程度に応じた分かりやすい英語の使用などを心がけたい。

## 参考文献等

- 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成21年3月告示
- 文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』
- 伊東治己(2008)『アウトプット重視の英語授業』教育出版
- 金谷憲(2011)『高校英語授業を変える！ 訳読オンリーから抜け出す3つのモデル』アルク
- 田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸編著(2011)『推論発問を取り入れた英語リーディング指導 深い読みを促す英語授業』三省堂
- 平野靖雄(2002)『提言—高校英語教育の現場から—生徒のうめき声から学ぶもの—』桐原書店

【資料8 補充プリント】

Lesson 6 A Man Who Saved the World <Supplementary Handout>

Part 1

○P77L1 **be about to do** まさに~しようとしている

○P77L5 **run + 形容詞** ~の状態になる(悪い状態)

(例) The river has run dry. (川が干上がった)

○P77L6 **be to 動詞の原形**

予定「~する予定である」・義務「~すべき」・運命「~する運命である」・可能(不定詞は受動態を使う)を表す。

Questions!!

1. The Prime Minister (next month / is / visit / China / to). 【予定】

2. You (are / until / stay / to / in this room / I return). 【義務】

3. No one (in the street / to / seen / was / be). 【可能】

4. I do not know (is / happen / to / what / to us). 【運命】

○P77L7 **set off ~** ~を引き起こす

○P78L4 **前置詞 + 関係代名詞(目的格)** 前置詞の目的語としての関係代名詞

(例) The professor to whom I talked yesterday was Akira's father. (私が昨日話をした教授は明のお父さんだった)

=The professor who(m) I talked to yesterday was Akira's father.

(The professor was Akira's father. + I talked to him yesterday.)

Questions!!

1. In the world there are many things (very much / about which / don't / know / we).

2. She was sitting at a large desk (there / two computers / were / on which).

3. This is the box (of my parents / in which / old pictures / found / I).

○P78L5 **be popular with ~** ~の間で人気がある

Part 2

○P79L4 **be in ~ condition** ~な状態にある

(例) The patient was in serious condition. (その患者は重傷だった)

○P79L5 **what is wrong with ~** ~はどうしたのか、~はどこが悪いのか

○P79L5 **would appreciate it if you would(could) do** ~をしていただけるとありがたいのですが〔仮定法〕

(例) I would appreciate it if you would reply to our invitation. (私たちの招待にご回答いただければ幸いです)

○P79L8 **have difficulty (in) doing** ~するのに苦勞する

○P79L8 **run a fever** 熱を出す

○P79L10 **in pain** 苦しんで

○P79L21 **all S can do is to do** Sができることは~することだけ

(例) All I can do is to pray to God. (私ができることは神に祈ることだけだ)

Part 3

- P80L7 **keep ~ from doing** } ~が…するの妨げる  
P83L9 **prevent ~ from doing** }

○P80L17 **work out ~** ~を考えだす、~を練って作る

○P81L2 **be concerned about ~** ~を心配している cf. be concerned with ~ : ~に関係している、関心がある

○P81L4 **be reluctant to do** ~することに気が進まない

○P81L5 **turn down ~** ~を断る、拒絶する

Part 4

○P82L2 **in a while** 間もなく cf. for a while しばらくの間

○P82L4 **give up on ~** ~に見切りをつける、~を見捨てる

○P82L6 **have no idea 疑問詞 ~** ~か分からない

(例) We have no idea where she has gone. (彼女がどこに行ったのか我々は全く分からない)

○P82L7 **as well** 同様に

○P82L11 **show (人) around (場所)** (人)に(場所)を案内する

○P82L11 **完了形で始まる分詞構文** 主節より前の時を表す。

(例) Having been much hunted, the animal is becoming extinct. (その動物は乱獲されたので、絶滅しつつある)  
(=As the animal was much hunted, it is becoming extinct.)

Questions!!

1. (leave my house), I realized that I had forgotten to lock the door.
2. (finish my homework), I decided to go shopping.
3. Not (be to the library before), I had difficulty finding where it was.

Part 5

○P83L1 **put ~ on alert** ~を警戒体制に置く

○P83L6 **at the cost of ~** ~を犠牲にして

○P83L7 **from that moment on** それ以来 (←その瞬間からずっと) cf. from now on 今からずっと

○P83L8 **come to do** ~するようになる

○P84L4 **bring ~ to tears** ~を泣かせる、~の涙を誘う(← ~を涙の方へ連れていく)

○P84L4 **doubt that S + V** SがVであるということを疑う、SがVであるかどうか分からない

○P84L5 **the same ~ as ...** …と同じ~

○P84L6 **be in one's place** ~の立場にある

○P84L15 **supply ~ with ...** ~に…を供給する

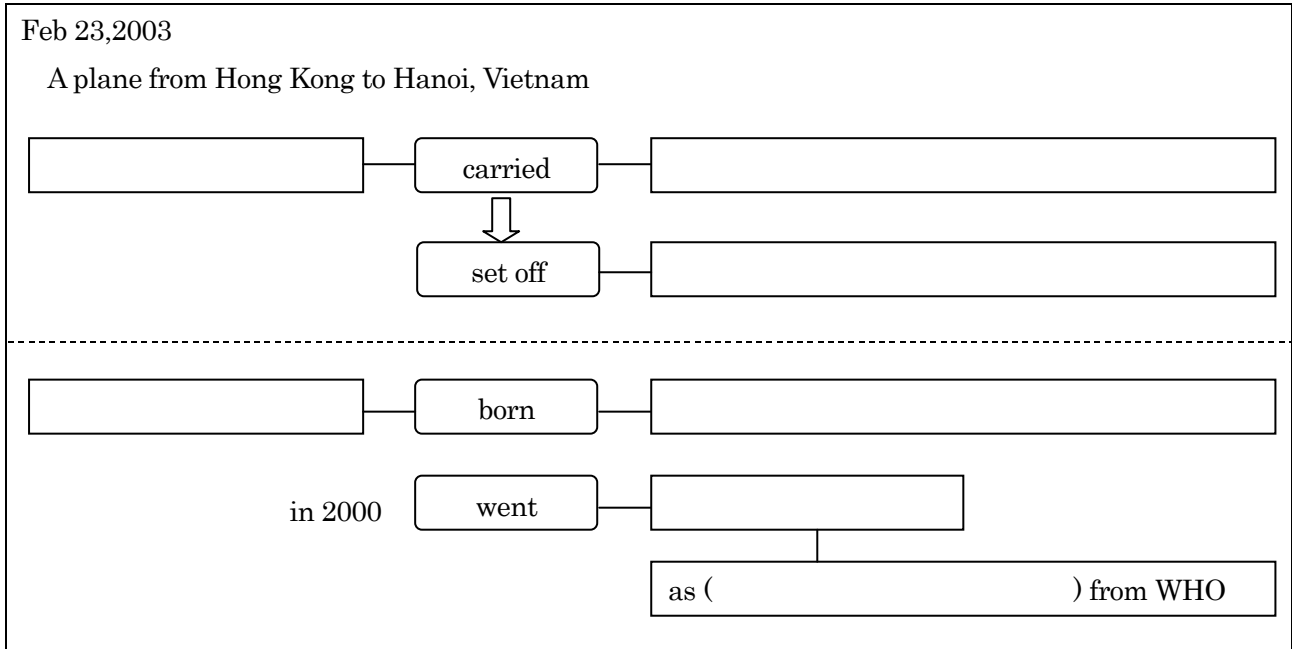
○P84L18 **give in to ~** ~に屈する、~に負ける

【資料9 全パートの授業プリント（チャート部分）と教員用英問英答資料】

Lesson 6 (Part 1)

<生徒配付の授業プリント（チャート部分）>

【Chart】



【Question】 Answer the question in English!

Why was Urbani popular with patients and people around him?

<教員用 英問英答資料>

【Q&A】

- 1 Who is the key person in the 1<sup>st</sup> paragraph?
- 2 Who was one of the passengers?
- 3 What was the businessman feeling?
- 4 What did he carry?
- 5 What did he set off?
- 6 Who is the 2<sup>nd</sup> paragraph written about?
- 7 Where did Urbani often go?
- 8 Why did he go there?
- 9 Why was Urbani popular with patients and people around him?
- 10 In 2000, where did he go?
- 11 Who did he go there with?

Lesson 6 (Part 2)

<生徒配付の授業プリント (チャート部分) >

【Chart】

March 3
<input type="text"/> — received — <input type="text"/>
<hurried to the hospital>
<input type="text"/> saw — <input type="text"/>
<input type="text"/> could not discover — <input type="text"/>
Only
<input type="text"/> — the spread of the disease
<input type="text"/> — it by e-mail to WHO

【Question】 Answer the question in English!

Why did Urbani wonder if the patient had met with people from Guandong, China?

---

<教員用 英問英答資料>

【Q&A】

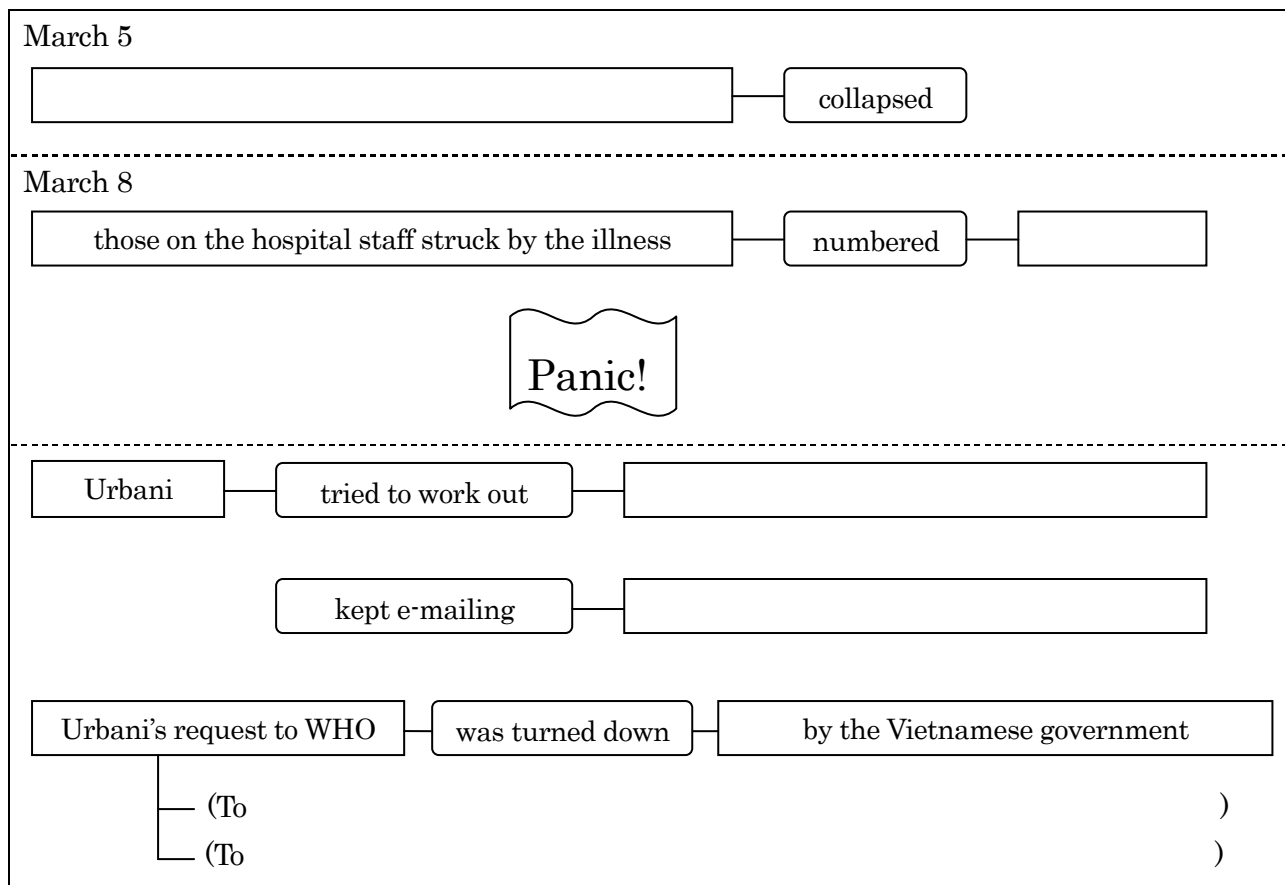
- 1 Who is the main character in Part2?
- 2 What did he receive?
- 3 What did the call ask for?
- 4 Why did the hospital ask for Urbani's help?
- 5 What did he see at the hospital?
- 6 Tell me more about the patient. What are 3 symptoms?
- 7 What couldn't he discover?
- 8 Why did Urbani wonder if the patient had met with people from Guandong, China?
- 9 So what did Urbani and his colleagues do?



Lesson 6 (Part 3)

<生徒配付の授業プリント (チャート部分) >

【Chart】



【Question】 Answer the question in English!

Why was Urbani's request turned down by the Vietnamese government?

<教員用 英問英答資料>

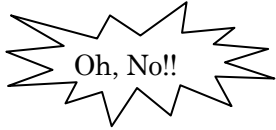

【Q&A】

- 1 On March 5, what happened?
- 2 Why did the nurse become unable to move?
- 3 By March 8, how many people on the hospital staff were struck by the illness?
- 4 How was the isolation ward?
- 5 There was little the hospital could do. Why?
- 6 What did Urbani try to work out?
- 7 What did he keep e-mailing?
- 8 What was the data?
- 9 What was Urbani's request to WHO? There were two requests.
- 10 Why was Urbani's request turned down by the Vietnamese government?

Lesson 6 (Part 4)

<生徒配付の授業プリント (チャート部分) >

【Chart】

Urbani	—	didn't stop	—			
		tried to give	—			
<				>		
						
-----						
March 11						
			—	arrived	—	Hanoi
						
-----						
That same night						
Urbani	—	left	—			
		put	—			

【Question】 Answer the question in English!

How do you think the patients felt in an isolation ward?

Why do you think Urbani decided to leave Hanoi for Bangkok?

<教員用 英問英答資料>

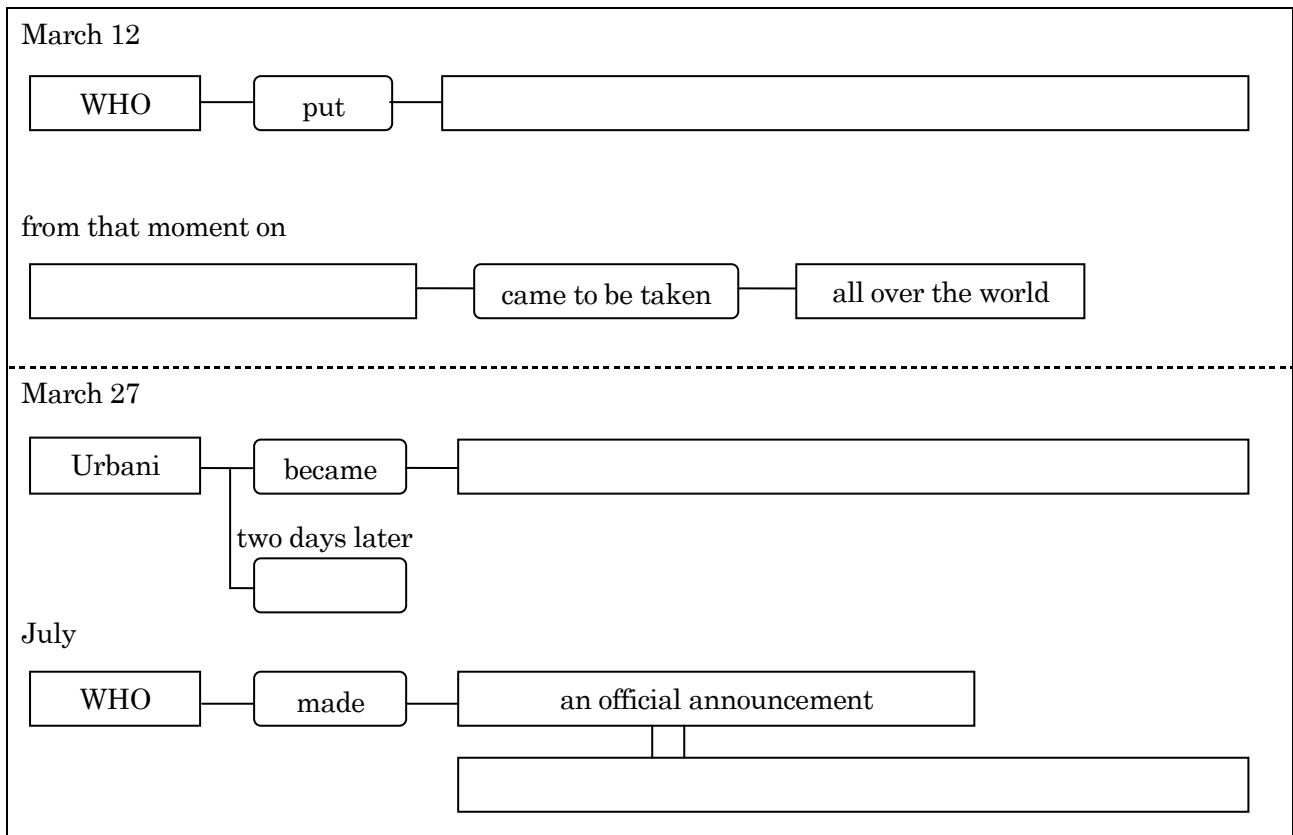
【Q&A】

- 1 How do you think the patients felt in an isolation ward?
- 2 What did Urbani do for the patients?
- 3 What did Urbani say to the patients?
- 4 What did one of the patients say about Urbani?
- 5 What was happening to Urbani's body at that time?
- 6 On March 11, who arrived in Hanoi?
- 7 What is his name?
- 8 What did Urbani ask Dr. Oshitani?
- 9 What did Dr. Oshitani answer to Urbani's question?
- 10 That same night, what did Urbani do?
- 11 Why do you think Urbani left Hanoi for Bangkok?

Lesson 6 (Part 5)

<生徒配付の授業プリント (チャート部分) >

【Chart】



<教員用 英問英答資料>

【Q&A】

- 1 On March 12, what did WHO do?
- 2 Has WHO ever put the whole world on alert?
- 3 What did the alert state?
- 4 From that moment on, what came to be taken all over the world?
- 5 On March 27, how did Urbani become?
- 6 Two days later, what happened to him?
- 7 When he died, how long was it after Urbani first saw the sick tourist in Hanoi?
- 8 When he died, how old was he?
- 9 In July WHO made an official announcement. What was the content of the announcement?
- 10 According to the expert, if Urbani had not found the virus in the early stages of the outbreak, how many people might have been the victims?
- 11 Back in 1999, what was given to the MSF?
- 12 At that time, what did Urbani say to the press that he would keep doing?

【資料 10 英作文用 “Write your idea!” プリント】

Read and catch the belief of Urbani

On March 27, Urbani became seriously ill with SARS. Two days later he died at the age of 46. It was 27 days after he first saw the sick tourist in Hanoi.

Back in 1999, when the Nobel Peace Prize was given to the MSF, Urbani said to the Italian Press: “It is my hope that I can supply sick people all over the world with the best possible medical treatment. To make this happen, I’ll keep doing two things: One is to stay by my patients, and the other is never to give in to any obstacles.”

Write your idea!

- Urbani 医師は感染の危険を冒して患者のもとへ通い続けました。あなたが彼の立場ならどう思いますか。5～6文の英文で書いてみよう。

If I were in Dr. Urbani’s place,

ヒント：本文にも出てきた表現を上手く活用しよう。例えば…

stay by patients

give (人) great encouragement

give (人) hope

work out a means to stop the disease

get more information

ask for help ～

wear protective gear 防護用具を身に付ける

Number (                  ) Name(                                  )

## 【資料 11 Presentation の進め方】

### Presentation の進め方

- 1 机をあわせませす。
- 2 司会(Moderator)を決め、発表する順番を決めます。
- 3 司会と発表者は次の手順で進行させます。
- 4 司会と発表者だけでなく、聞き手も【ほめ言葉】や【励ましの言葉】を使って盛り上げよう。
- 5 一人の発表が終わるごとに1分程で評価シート(Evaluation Sheet)を記入します。  
まず、発表者の名前を書き、3つの評価のポイントに○をつけ、コメントを記入します。  
書き終わったら、発表者に評価シートを渡します。

1 声の大きさ・話し方    2 話の内容が理解できる    3 アイコンタクト・熱意

#### ①司会(Moderator)

Let's start our presentation.

The first speaker is ～. Please start you presentation.

(Presentation)

Thank you for your speech.

(To all members) Do you have any questions?

Now write your evaluation sheet in 1 minute.

(1 minute)

Let's move on to the next speaker. Next speaker is …

(Repeat)

(All members have finished)

Now, presentation has finished. Thank you, everyone.

#### ②発表者(Speaker)

OK. I will start my presentation.

<Presentation>

Thank you for listening.

#### 【ほめ言葉】

Good!	いいね
Great!	すばらしい
Wonderful!	すばらしい
Good job!	よくできた
Well done!	よくできた

#### 【励ましの言葉】

Cheer up!	がんばって
Take it easy.	落ち着いて
Don't give up.	あきらめないで
Try it again.	もう一度やってみよう
You can do it.	できるよ
Don't worry	気にしないで